

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号 58

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	学習指導（教務）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケートから ・「本校では、教科により習熟度別授業や少人数授業があり、それが学習の理解につながっている。」（肯定評価の割合：生徒94%） ・「本校では、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」（肯定評価の割合：生徒90%）	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 主体的・対話的な学習態度を育てます。 (2) 家庭学習時間の10%アップを目指します。 (3) 他学科と共に高め合います。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職、企画委員会を核とし、他の分掌、学年会と連携した両キャンパス、全課程一体となった組織。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業公開と研究授業を通して教員同士が意見交流を行い、アクティブラーニングの視点に立った授業改善を進めます。 (2) 生徒に家庭での振り返りの重要性を理解させ、学習の習慣を確立できるように援助します。 (3) 学科の多様性を生かし「学習成果発表会」を多面的な学習の機会とします。	(1) 保護者、生徒による授業評価、考査の結果、成果物。 (2) 学習時間調査の結果。 (3) 学習成果発表会に対する生徒の満足度、外部評価。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・年2回の授業公開、各教科による研究授業の実施。ICT機器の積極的な活用。 ・到達目標を明確化し、生徒が具体的な学習課題を意識できるよう支援する。 ・学科の特徴を生かした取り組みと、相互の連携。	①生徒が主体的に授業に参加できたか。ICT機器の活用によって学習意欲が高まったか。 ②家庭での学習時間が増えたか。 ③学習成果発表会で他学科への理解が深まったか。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D
11 成果・課題	○授業で生徒が交流し主体的に活動する場面が増えたことで、学習に対する意欲が高まった。 ○学習時間が20%以上増加し、外部模試などの結果に成果が表れた。 ▲勤勉な態度で学ぶ生徒がほとんどであるが、思考力・判断力がつくような授業展開とテスト問題の工夫が必要である。	総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策	・「主体的・対話的で深い学び」を実践するため、ICT機器の活用方法を含めてさらなる授業研究を進める。 ・新しい学習指導要領に向けたカリキュラム編成を、各学科で具体的に検討する。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月24日

【意見・要望・評価等】
・多様で幅広いニーズに応える学校経営を行っている中で、生徒・保護者からの学習に対する評価が非常に高いことは素晴らしいことだと感じている。 ・牛を取り上げたテレビ番組で、すべての生徒が元気よく楽しく学習している姿が放映され嬉しかった。 ・トマト栽培の研究で、岐阜県で最優秀賞を獲得したことは非常に光栄なことだと感じている。